



歐州に於ける幼稚園 思想 (承前)

米國 エム、シイ、オツシー

轉んじて巴里を訪れた時には全く異つた状況を見出した。園内の様子は之をベルリンのに較べると頗る温和である、作業は彼等の様に嚴格でなく先生は教師と云ふよりは寧ろ幼児の友達と云ふ可きである。而して幼児をして如何に幸福ならしむべきかと云ふことに就ては彼等は獨乙の教師よりも一層深き注意を拂つて居る様である、ベルリンに於ては幼児をして従順ならしむること、學ばしむると云ふことが主として要求せられて居る、巴里に於ては此反對に教師は彼等の慈父慈母であつて彼等幼児の爲めに常に何等かの興味を興へんこと

を心掛けて居る可きものと云はれて居る。佛國に於ては法律上之を禁せられて居る。そして一般に体罰を用ゆべからざるものとして他に幾等も之に代はる相當な方法があつて教育上には決して不都合はないと云ふ考へを持って居る様である、予はフランスの學校の教室に然も兒童の面前に某種の体罰が禁せらるゝことの法文が掲げてあるを見たが教師は夫れが決して兒童の放縱の原因となる様なことはないと云ふのを聞いた。斯様な譯で佛國の幼稚園と云ふものは自然室内の空氣が之をベルリンのに比すると快活である、そして先生達は子供の遊んで居るのをば悦ばし氣に見て居る、従つて學校に至つても或種のものは遊嬉的手段で教へられて居る、之に就いて面白い實驗があつた、忘れもしない、巴里のリセー、フェネロンでの英語の教授であつたが、生徒は何れも八九才ばかりで先生は生粹の巴里子で暫く英國に住居したことのある人だそ、だが頗る巧みな發音で殆んど英人と區別しがたい程であつた、彼が教授の第一歩は遊戯として演ずる英語の動作唱歌を

教師の間に應じて答ふる方法であつた。生徒は非常に熱心で殆んど自然に自國語を收得する様な有様で英語をば學んで居つた、そして色々なものを叙述して居つたが中々熱心なものであつた。餘り生徒が熱心に且上手に英語を練つて居つたので予は自分の今巴里に居るのを暫くは忘れてしまつた位である、頓ての事に仕事は英語で指圖を與へる遊びとなつて教師の周到の注意の下に其時間中の全活動は悉く英語で支配された。そして發音の正確なものがあるが猶豫なく訂正して居つたがそれが一寸も遊を妨げる様なことはなかつた。斯くして遊びと稽古とが併行するので子供は眞に仕合で教師も亦頗る満足の様であつた、終りの十五分間は英語の讀み方と英國の傳説的童話の暗誦であつたが此暗誦中も生徒の働さがよんで教授が停滯する様なことはなかつた、従つて生徒が此時間を終つて室から出る時には入室の時よりも一層幸福で然も爽快な氣持を持つて居つた様である。此巴里の先生の教授は我幼稚園の根本原則を幾分勉學の上に調和して居る様に見えるので茲に態々引

用した次第である、實際巴里人は一般に幼稚園思想を以て兒童を管理し様として居るのである。佛國に於ては慈母學校と云つて二才半乃至五才の子供を管理するものがある、此次に来るのがエコール、インオアンテインで七才迄のものを教育することに於て居る、慈母學校と云ふのは其名の示すが如く貧民の憐れな子女に幸福な家庭生活を與へて遣らうと云うので教師は全幼兒の母の様なものである、併し意外のものは彼等は誠によく緊張せられた人であるが、最近の幼稚園教育法と云ふものに就ては予の知る所の範圍内では殆んど無智の様に見えた、彼等の室には床上に作り付けになつた席がある、そして何等構作的な手技もなく況して吾等が幼稚園に常見る所の團樂の風は一寸もない、エコール、インフアンティに於ても矢張り同様に學校と云ふものは凡て唯僅の智識を授くることの外主として意思陶冶の場所の様である、故に或人は是等の幼稚園を見た後で吾米國式の幼稚園を見て大に賞賛して居る、勿論我等として何等の過なしと云ふ可からずだけれど吾等は常に致々と

して研究に努めつつあり従つて心理學及生物學より多少の得る所があると思つて居る、巴里に於ける慈母學校や幼稚園の生徒が女教師や保母であるとするは吾等の幼稚園は學生である、併し幸のことに吾人は幼兒をして満足せしむ可き最良の方法は常に興味を以て彼等を牽引し其活動の發達を維持することにあると云ふことを發見して實行して居る。

それから又我々の幼稚園では幼兒の周圍をば快活と興味とを持つたもので取りまいて居るが此我國の様子に比べると巴里諸校の教室はまだく陰氣であつて壁上には面白い美術畫と云ふものが一もなく我等の幼稚園に見ゆる快活溫和なる色彩の配合と云ふものは頗る見掛けることが出来ない、巴里は世界第一の美しき都であるといはれ美術上重要なる建築多しと云はれて居るにも係らず其美術心は學校の設備、裝飾に及ばないと見える、從つて子は巴里に於て眞に趣味深く裝飾された教室を見たことがない、之を我國の幼稚園が數々の繪畫其他のもので壁上を飾つて居る者に比べると實に

雲泥の差である。それがら子供の教科書たる繪畫を調べて見たが是が亦粗末なもので殆んど見るに足るものがない、是に於てか巴里の美術は唯外觀的で單に見物人を寄せ集むる必要あるに因るはかりである。と云ふことがわかつた。(湘南譯)

▲▲▲▲▲ 蝸牛の料理と藥用 (理學士藤田補世氏)

今日生存する蝸牛の種類は五千里程ある。化石となつて現れたもの許りでも四百種以上もある。信州では痔の藥だと云つて蝸牛を焼いて食つてゐる。西洋で蝸牛を食用としたのは西歷紀元以前からである。其の蝸牛を養殖園を作つて、引割麥と葡萄酒を交ぜたものを餌料としたとある。此養殖術は非常に成功して、般の大きなのは六ペニーの貨幣八十個を盛る事が出来る様になつたといふ。或地方では蝸牛は食慾を増す効能があると思つてゐた。英國の或地方では蝸牛からクリームを作つてゐる。藥用として助腹疾、水腫、黃疸、火傷、氣管炎、喘息、癩病、弱血病、消耗熱、マテ賢く養つて毒物をぬいてから用ふる。衛生新報、西洋に於る蝸牛の利用。

▲▲▲▲▲ 砂糖の日本へ來た年代 (光太郎氏)

六十代醍醐帝の時にできた本草和名に甘蔗及砂糖が載せてあるから、此頃には砂糖があつたことが分る。支那では唐とある。支那から砂糖を輸入したものである。支那では何つ頃から用ひ始めたかといふに、老學菴筆記といふ書に「砂糖中國本無、此時代開始外國實全自中」云々の語句がある。支那では唐太宗時外國から來た。砂糖の製造をもくろんだのは南部の加する處から甘蔗の栽培、砂糖の製造をもくろんだのは南部の人阿部友之進といふ人である。此人が享保年中幕府に建白したのだ。博物の友、砂糖の來歴。